1B03 9481
(CBARF-952)

レンジフード **取付説明書**

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります

アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります

使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

取付注意
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠ 注意

手袋をする
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

使用禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります

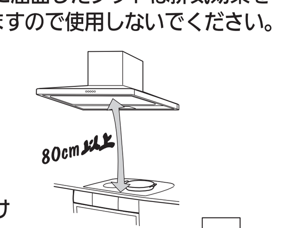
接触禁止
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になる所には取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

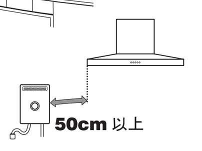
取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ダクトを20～25mmの国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。
  排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m^3/h時50Pa以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向50cm以上離して取り付けてください。
  湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、より優れた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm^2程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

⚠ 注意

手袋をする
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

取付注意
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

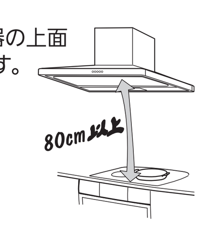
1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品質量	25.5kg

2 吊りボルトの設置
レンジフードの本体はM12（市販品）の吊りボルト4本を使用し、天井内の梁などへ取り付けます。
※ 吊りボルトは耐荷重200kg／本となるように取り付けてください。

3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

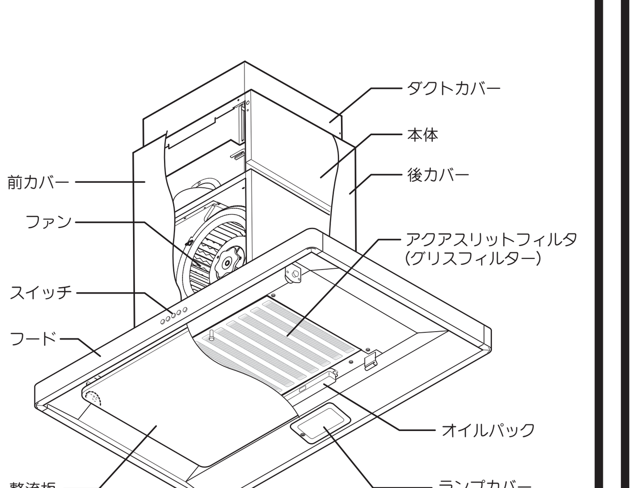
4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで80cm以上です。
※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。



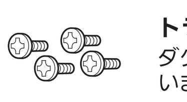
5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器15A 125Vをご使用ください。

お願い
必ずアース（D種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動するおそれがあります。

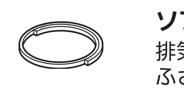
各部のなまえ



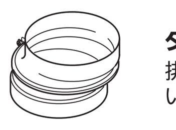
付属品



トラスねじ（M4×10）4本
ダクトカバーと本体との固定に使います。



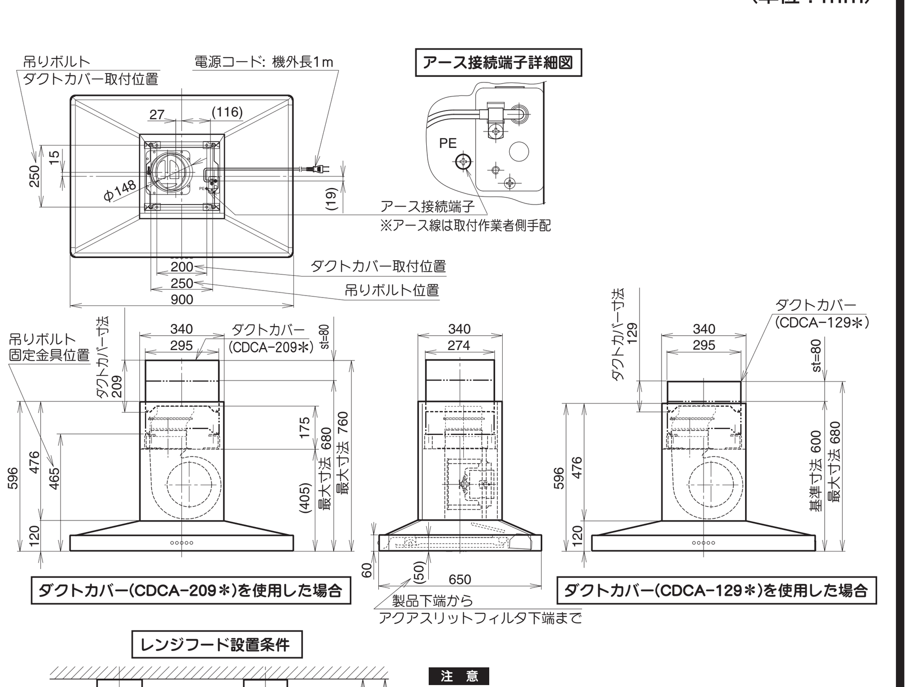
ソフトテープ　1本
排気口とダクト継手とのすきまをふさぐのに使います。

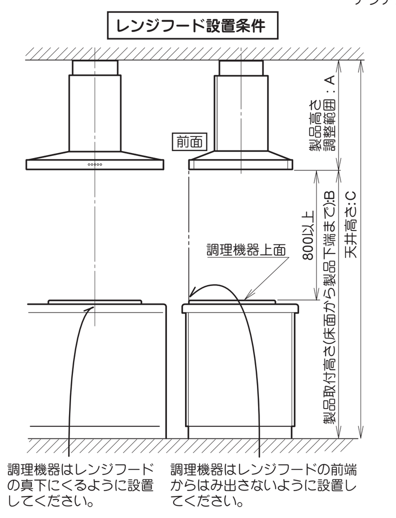


ダクト継手　1個
排気口とダクトを接続するのに使います。

製品寸法図

（単位：mm）





注意
調理機器設置高さと天井高さの関係により、このレンジフードが設置できない場合があります。
下表の製品取付高さと天井高さから適切なダクトカバー品番を選択してください。

ダクトカバー品番	製品高さ調整範囲：A	設置寸法(例) 製品取付高さ：B	天井高さ：C
CDCA-129＊	600~680	1600	2200~2280
		1650	2250~2330
		1700	2300~2380
		1750	2350~2430
		1800	2400~2480
CDCA-209＊	680~760	1600	2280~2360
		1650	2330~2410
		1700	2380~2460
		1750	2430~2510
		1800	2480~2560

※ 上記の設置寸法は一例です。
　上記以外の設置寸法の場合は、製品寸法図を参考にして、ダクトカバーを選定・調整してください。
※ ダクトカバー型名の「＊」には色記号が入ります。

取り付けかた

1．付属品の確認

⚠ 注意

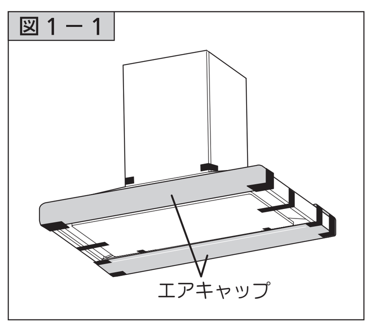
手袋をする
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取扱注意
- 作業は2人以上でおこなうこと
  製品は25.5kgの重さがあります

梱包箱から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 保護用のクッション材と固定テープは取付作業が完了するまでキズ、破損防止のためはずさないでください。（図1－1）
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

図1－1



2．取付準備

⚠ 警告

取付注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注意

取付禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります

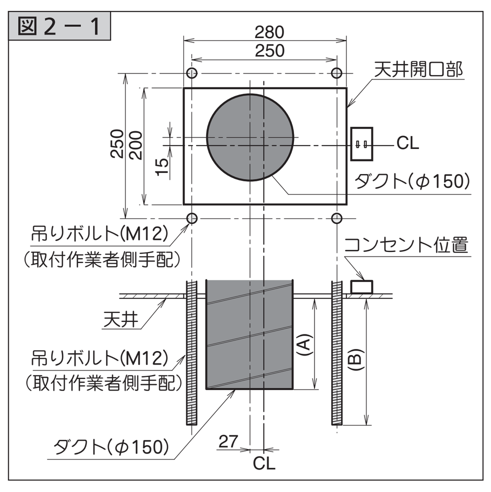
使用禁止
- 周囲温度が40℃以上になる所には取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

1 右図を参照し、天井面にダクト穴を開けます。（図2－1）
また、天井開口部近くの補強桟または野縁等に専用コンセントを設置します。

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットし、周囲を仕上げます。

3 M12の吊りボルト（取付作業者側手配）を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。
固定ピッチは前後、左右とも250mmです(製品寸法図参照)。

図2－1



お願い
天井面からのダクトの突き出し長さ(A)、および吊りボルトの突き出し長さ(B)は、製品高さ（調整範囲:600－760mm）により異なります。製品寸法図を参考にして、次式により算出してください。

（単位：mm）

ダクトの突き出し長さ(A)　　±10＝「製品高さ」－535
吊りボルトの突き出し長さ(B)　±10＝「製品高さ」－440

例）

製品高さ	ダクト突き出し長さ(A)	吊りボルト突き出し長さ(B)
750	215±10	310±10
700	165±10	260±10
650	115±10	210±10
600	65±10	160±10

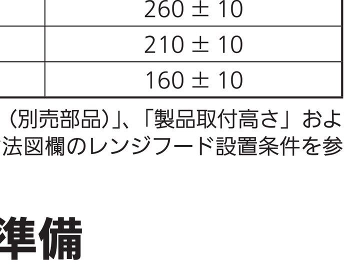
※「製品高さ」寸法は、「使用するダクトカバー（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。製品寸法図欄のレンジフード設置条件を参考にして決定してください。

3．本体の準備

1 本体の前カバー・後カバーをはずします。（図3－1）
1）前カバーは下側を手前に引き、下へずらしながら取りはずします。
2）後カバーは取付ねじ4本をはずし、左右に少し広げるようにしながら後方へ取りはずします。

お願い
取りはずしたねじは、「7．組み立て」にて再度使用しますのでなくさないでください。

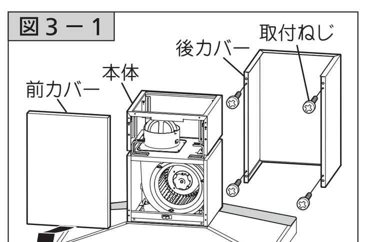
図3－1



2 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。（図3－2）

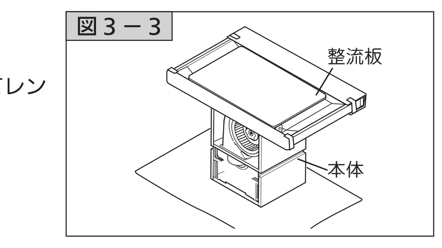
お願い
輸送用の固定テープがついていますので、ソフトテープを貼る前に必ずはがしてください。
はがさずにダクトを接続すると、排気不良や異常音の原因になります。

図3－2



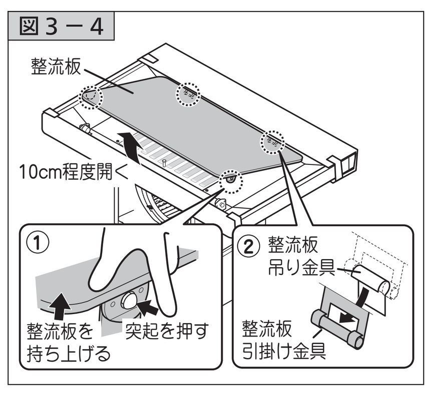
3 レンジフードの天地を反転させます。（図3－3）
図のように整流板が上になるようにしてレンジフードを置いて作業してください。

図3－3



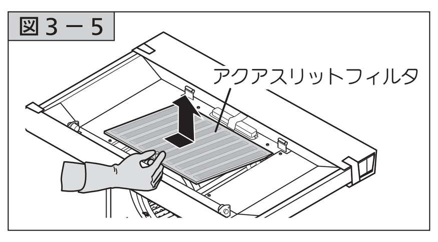
4 整流板をはずします。（図3－4）
1）整流板を固定しているテープを取り除きます。
2）整流板の前側を固定している左右の突起を押し込みながら前側をゆっくりと持ち上げ、ロックをはずします。
3）整流板を10cm程度開いた状態で、整流板吊り金具から取りはずします。

図3－4



5 アクアスリットフィルタをはずします。（図3－5）
アクアスリットフィルタのとってを持ち、矢印の方向へ押し込みながら、やや上側へ引き出します。

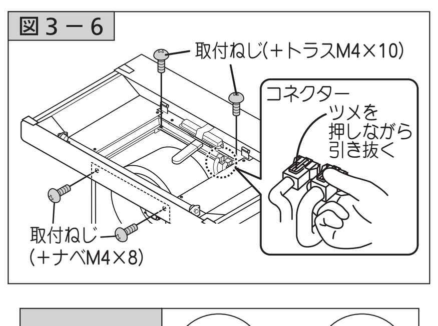
図3－5

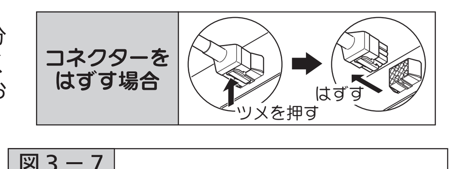


6 フードと本体を分離します。（図3－6）
1）取付ねじ4本（各2本）をはずします。
2）電気配線のコネクター2ヶ所をはずします。

お願い
- 取りはずしたねじは「4．本体の取り付け」にて再度使用しますのでなくさないでください。
- コネクターをはずす際は、ツメの部分を押しながら、まっすぐ引き抜いてください。無理にひっぱると断線するおそれがあります。

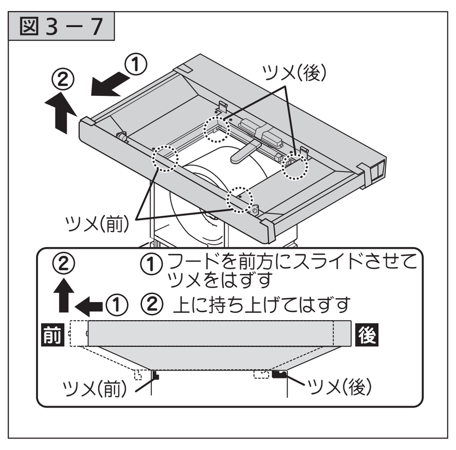
図3－6





7 フードを取りはずします。（図3－7）
1）フードを前方へスライドさせて前後各2ヶ所のツメからはずします。
2）フードを上に持ち上げて本体からはずします。

図3－7



4．本体の取り付け

⚠ 注意

取付注意
- 本体の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。（図4－1）
1）右図を参考にして、次式によりマーカー位置(X)の値を算出してください。
　X＝「製品高さ」－465

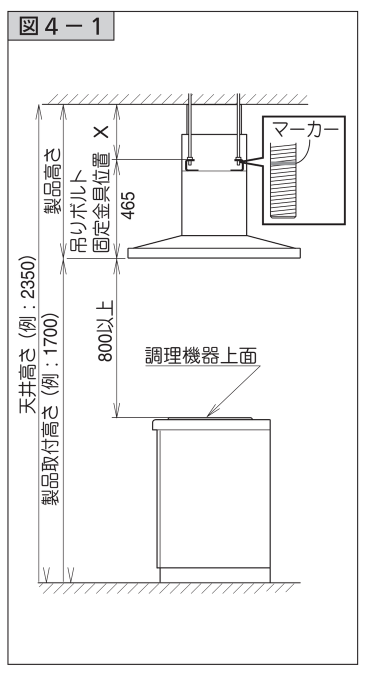
※「製品高さ」寸法は、「使用するダクトカバー（別売部品）」、「製品取付高さ」および「天井高さ」によって異なります。製品寸法図欄のレンジフード設置条件を参考にして決定してください。

例：製品取付高さが1700mm、天井高さが2350mmの場合（製品高さ＝650mm）：
　X＝650－465＝185
天井からのマーカー位置（X）は185mmとなります。

※ マーカー位置が135mmより小さい場合は取り付けできません。その場合は製品特注にて対応可能な場合がありますので、販売店にご相談ください。

2）吊りボルトの天井からXの値の位置にマジックペンなどでマーカーをつけます。

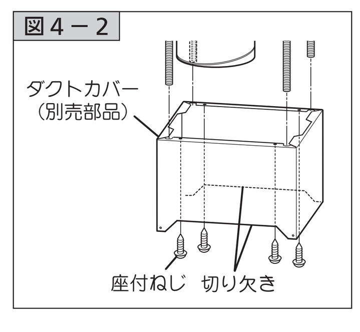
図4－1



2 ダクトカバー（別売部品）を取り付けます。（図4－2）
ダクトカバーを座付ねじ4本で天井面に固定します。
座付ねじはダクトカバーに付属しています。

お願い
切り欠きのある面をレンジフード本体の前後方向にしてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

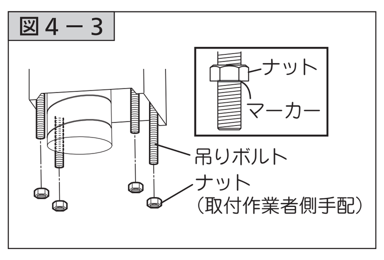
図4－2



3 M12のナット（取付作業者側手配）を吊りボルトのマーカー位置までねじ込みます。（図4－3）

お願い
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで800mmにならない場合は調節してください。

図4－3

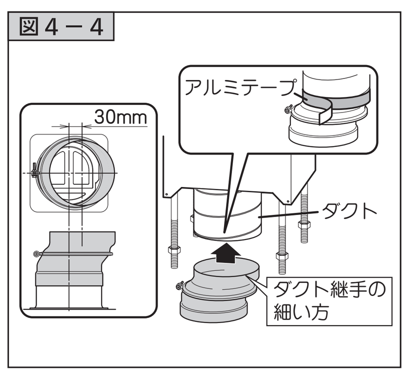


4 ダクトにダクト継手を取り付けます。（図4－4）

お願い
付属品のダクト継手は、ダクトと本製品の排気口とを30mmオフセットして接続します。取り付ける際は、位置関係を確認して取り付けてください。

1）付属品のダクト継手の細い方をダクトに差し込みます。
2）接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこない、ダクト継手を固定します。

図4－4



お願い
ダクト継手を固定する際は製品寸法図を参照し、取り付ける向きに注意してください。製品を取り付ける際、排気口と位置が合わず接続できなくなります。

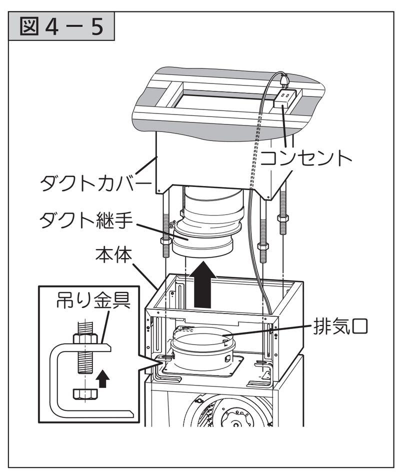
5 本体を吊りボルトに固定します。（図4－5）
1）本体を持ち上げて4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側からM12のナット（取付作業者側手配）をしっかりと締め付けます。

お願い
ダクト継手に排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2）電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。

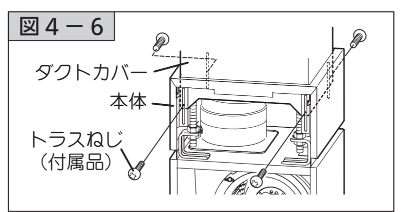
お願い
必ずアース（D種接地工事）を同時に取ってください。

図4－5



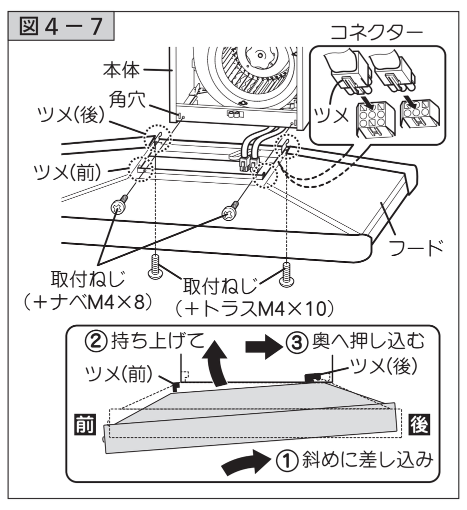
6 ダクトカバーと本体を固定します。（図4－6）
付属品のトラスねじ4本で前後各2ヶ所を固定します。

図4－6

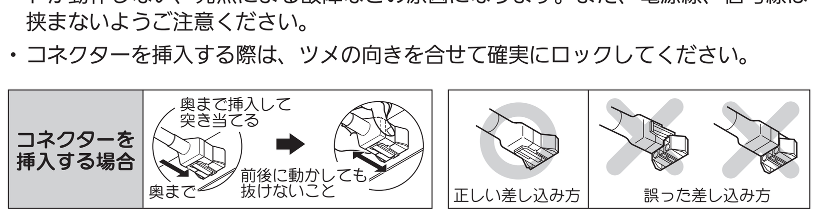


7 本体を取り付けます。（図4－7）
1）本体にフードを斜めに差し込み、フードのツメ（後）2ヶ所を本体に引っ掛け、前側を持ち上げます。ツメ（前）2ヶ所が本体の角穴に差し込まれるまで奥にスライドさせます。
2）「3．本体の準備」手順**6**にてはずした取付ねじ4本（各2本）で前および下から固定します。
※ 前側と下側で取付ねじの種類が異なりますので注意してください。
3）ツメが下になるようにしてコネクター2ヶ所を差し込みます。

図4－7



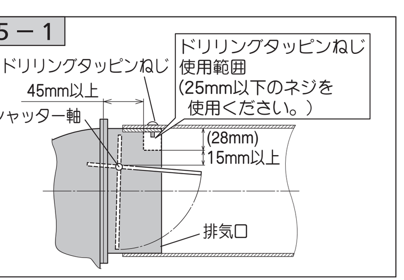
お願い
- コネクターの接続は確実におこなってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合せて確実にロックしてください。



5．ダクトと排気用部品の接続

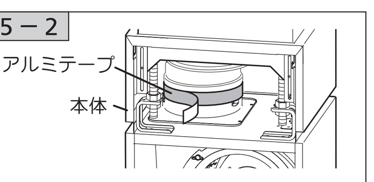
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図5－1）

図5－1



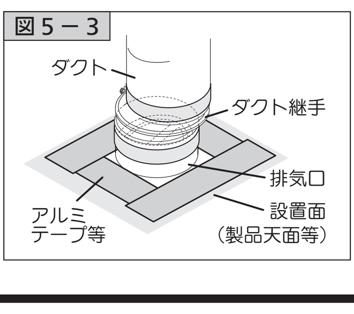
ダクト継手接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図5－2）

図5－2



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図5－3）
ダクトを接続する際に無理に接続しようとすると、ダクト継手、排気口および排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトの接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図5－3



6．電気配線

⚠ 警告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります

アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

1 アース（D種接地工事）を取ります。
（「4．本体の取り付け」手順**5**でおこなってください。）
※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
- 電源は専用のコンセント（2極差込接続器15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

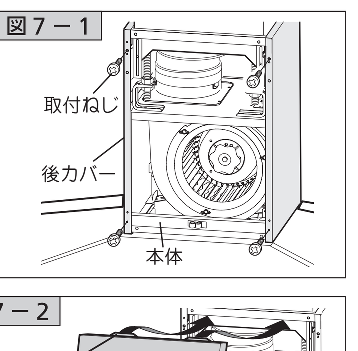
7．組み立て

⚠ 注意

取付注意
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

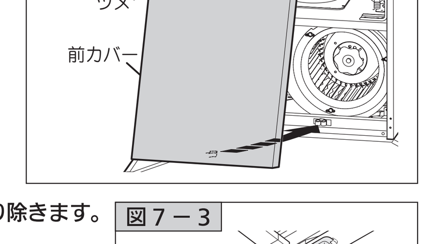
1 本体に前カバー・後カバーを取り付けます。
1）各部品が確実に組み立てられているか確認した後、本体の後カバーを「3．本体の準備」手順**1**にてはずした取付ねじ4本で固定します。（図7－1）

図7－1



2）前カバーは上部のツメを引っ掛けて上方へずらしながら下側のローラーキャッチをはめ込みます。（図7－2）

図7－2



2 オイルパックを固定しているテープを取り除きます。（図7－3）

図7－3

3 アクアスリットフィルタ・整流板を取り付けます。
「3．本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

4 残っているエアキャップや固定テープなどをすべて取り除きます。

8．試運転

⚠ 注意

接触注意
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

- ■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- ■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- ■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- ■ 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- ■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

9．お客様への説明

- ■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- ■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

［製造元］富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1－9
TEL 042(768)3754（営業部）